

令和4年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		「夢や希望を持ち、目標に向かってたくましく、しなやかに生きる生徒の育成 ～明るく、わ(和・輪)のある学校～」		4月		2～3月	
推進主体		研究推進委員会(管理職、研究推進担当、兵庫型学習システム担当、国語科・数学科・英語科教科担当、特別活動担当で構成)		学力向上に向けての 重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
				成果となる目標		評価	
学 力 の 状 況	全国学力・学習 状況調査結果の 状況 (国語、算数・数 学に関する質問 紙調査の結果も 含む)	国語  算数 数学	【国語】 ◇昨年度の結果より、「話し合いの話題や方向性を捉える」では、正答率が95%あり、ほぼ全員が趣旨を捉えて話し合いができることが分かる。また、「漢字の読み」もどちらも正答率が95%以上あり、基礎的な学習がしっかり定着していることがわかる。さらに、「読むこと」で、「場面の展開を答える問題」では、正答率は75%であるが全国平均を16ポイント上回っており、読解力の高さがうかがえる。 ◆昨年度の結果より「語句や文の使い方」の正答率が30%(全国25%)であり、大まかな意味を捉えることはできるが、細かい文の趣旨を捉えることに課題が見られる。また、「文章に表れているもの見方や考え方を捉え、自分の意見を持つ」の正答率が22%(全国20%)であり、読み取った内容を自分の意見として表現することに課題が見られる。 【数学】 ◇昨年度の結果より、「図形」の範囲では正答率が66.8%(全国51.4%)で全国平均を15ポイント上回っている。特に、「四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明すること」では正答率が62.6%(全国44.3%)で全国平均を18ポイント上回っている。このことから定義、定理などを利用して証明する能力は非常に高い状況にあるといえる。また、「与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する」設問では、正答率は9割を超えており、表やグラフを読み取ることの定着がうかがえる。 ◆「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」設問では、正答率が23.0%(全国11.1%)で3割を切っている。このことから数学的な表現を用いて説明する力を高めることが課題である。また、記述式の問題では正答率が51.0%(全国35.5%)であり、計算力は非常に高いが、それを数学的な表現を用いて説明する力を高めることが課題である。	1. 授業改善	○学校評価生徒アンケートにおいて、昨年度に引き続き「生徒は授業に真剣に取り組む、わかりやすいと言っている。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。 ○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～iPadの効果的な活用推進～」を研究テーマとし、ICT機器を活用した学習指導の工夫、授業改善に取り組む。 ○「自分にもできた、分かった」と生徒が実感できる授業の工夫をする。 ○「めあて(見通し)」と「振り返り」を取り入れた授業を行い、生徒の学びに対する自己調整能力を高める指導を行う。 ○協働的・探究的な学習を積極的に取り入れた授業を行う。その中で、ホワイトボードやiPadなどを活用し、「図・表・グラフ」などの資料を効果的に提示し、自分の意見を述べるとともに、他者の考えに触れ、対話を通じて考えを深める機会をつくる。 ○根拠を明らかにして、論理的に書く・話す力の育成(表や図、グラフや資料の読み取りや活用)をする。 ○ICT機器(大型モニター/iPad/PC/プロジェクターなど)を効果的に活用した授業を行う。 ○「授業参観weeks」で、全教員が互見授業をおこない、「生徒の学びの姿」を授業改善につなげる。 ○校内研修及び、研究授業を積極的に行う。	
	定期テスト、単元テストなど による状況(各教科)		◇生徒の定期テストへの意欲は高く、時間を有効に活用し、計画的に学習に取り組む姿勢が高まってきている。 ◆テストの得点のみならず、学習方法やその過程を振り返り、自分に適した学習方法を身につけていくことが課題である。	2. 家庭学習の充実	○学校評価生徒アンケートにおいて、「生徒は自分から進んで発表をしたり、宿題や復習など家庭学習を行っている。」の項目で、肯定的評価が80%以上を目指す。	○各教科で計画的に家庭学習の課題を与え、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化のさらなる充実を図る。 ○キャリアパスポートの振り返り、テスト計画表の作成など、生徒が自らの取り組みを振り返り、改善するための指導を充実させる。 ○通信等を通じて、各家庭への啓発を行う。 ○校区連絡会において、学校評価アンケートの家庭学習の現状を交流し、改善点を探る。	
	授業等からうかがえる状況 (各教科)		◇落ちていて学習に取り組むことができる。グループでの学びの機会を意欲的に組み入れた結果、授業における生徒間の対話が増え、共に学ぶ雰囲気が高まってきている。 ◆自分の考えを筋道を立てて説明することに課題がある。	3. 学力補充	○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。	○朝学習で基礎基本の定着を図る。 ○テスト前や長期休業中に、学習相談日を設け、個に応じた指導を充実させる。 ○木曜日の放課後や、ひょうごがんばり学びタイムを活用して、学習状況に課題がある生徒を中心に補充学習を行う。	
学 力 向 上 習 に 係 る の 学 習 状 況 ・ 生 活	全国学力・学習状況調査の 質問紙の状況		◇「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」では、肯定的な回答が73.2%(全国63.5%)であり、「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」では64%の生徒(全国41.5%)が、2時間以上取り組んでいることから、主体的に家庭学習に取り組む習慣が高まっていることがうかがえる。また、「1、2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」という設問について、「週1回以上(「ほぼ毎日」も含む)」と回答した生徒は57.8%(全国33.4%)であり、今年度はさらに効果的な活用を工夫する。	4. 小中連携の充実	○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上を目指す。	○朝学習で基礎基本の定着を図る。 ○テスト前や長期休業中に、学習相談日を設け、個に応じた指導を充実させる。 ○木曜日の放課後や、ひょうごがんばり学びタイムを活用して、学習状況に課題がある生徒を中心に補充学習を行う。	
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況		◇「生徒は授業に真剣に取り組む、分かりやすいと言っている。」の項目は、肯定的評価(そう思う/だいたいそう思う)が94ポイントであり、落ち着いた学習環境が整っている。 ◆「学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」の項目は、肯定的評価が72ポイントであり、学力補充や小中で連携した家庭学習の定着への取り組みが課題である。	5. 読書活動の充実	○生徒会図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、学校図書館の本の貸出冊数を昨年度より増やす。	○朝読書の時間を通じて、読書活動の充実を図る。 ○生徒会図書委員会の取り組み(おすすめ本の紹介など)を通じて、読書活動を推進する。 ○図書ボランティアと連携し、学校図書館の環境整備や昼休みの開館時間、本の貸し出しなどを推進する。 ○給食前後の休み時間に学校図書館を開館し、本の貸し出し機会を充実させ、学校図書室の利用を促進する。 ○「読書通帳」「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」を効果的に活用し、生徒の読書に対する意欲を高める。	
	校内研修の状況		◇昨年度は、「これからの時代に求められる資質・能力の育成 —「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して—」を研究テーマとし、「資質・能力の三つの柱」を念頭に、授業改善を進めてきた。今年度は、「iPadの効果的な活用の推進」に焦点をあて、さらなる授業改善を進める。 ◇昨年度は、学習場面におけるiPad効果的な活用を推進するため、スクールワークの活用やミライシード導入に関わる研修を実施した。各教科の実践交流を通じて、「生徒の学びの姿」からさらなる授業改善につなげるために、継続して研修を推進する。	6. 読書活動の充実	○生徒会図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、学校図書館の本の貸出冊数を昨年度より増やす。	○朝読書の時間を通じて、読書活動の充実を図る。 ○生徒会図書委員会の取り組み(おすすめ本の紹介など)を通じて、読書活動を推進する。 ○図書ボランティアと連携し、学校図書館の環境整備や昼休みの開館時間、本の貸し出しなどを推進する。 ○給食前後の休み時間に学校図書館を開館し、本の貸し出し機会を充実させ、学校図書室の利用を促進する。 ○「読書通帳」「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」を効果的に活用し、生徒の読書に対する意欲を高める。	
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況		◇子どもの教育に対する関心が高い家庭が多く、学校教育活動にも協力的である。生徒がボランティア活動などを通して地域で活動し、交流を進めている。				
	小・中における教科連携等の 状況		◇年度当初に小学校と連絡を取り合い、「生活・学習習慣」や「学習指導」についての交流を行っている。 ◇「道徳・人権教育」の年間指導計画(カリキュラム)の小中間の交流を進めている。 ◆授業の見学などを通じて発達段階に応じた工夫をした取り組みを共有するとともに、学習指導の充実を図ることが課題である。				